



Pick Up News

12月に入っても学生活躍のニュースが盛りだくさん。学科WEBから引用すると「建築学専攻 小山田陽太さんの修士設計が書籍掲載」「学生アイデアコンペ (第1回タカカグループ学生住宅設計アイデアコンペ) で、最優秀賞を菊地健汰・高橋太陽・古山蓮大・藤田大輝が受賞、また建築学科の10チーム36人が審査員特別賞・日建学院賞・優秀賞・佳作に入選」「第21回『主張する「みせ』』学生デザインコンペで建築学科学生が奨励賞受賞」などなど。大変うれしいことです。また今号では「在学生の**一級建築士試験合格**」という快挙もお伝えすることができました。それぞれ目標をもって日々を過ごしていることの成果だと思います。いよいよ年の瀬。2023年は皆さんにとってどのような年だったでしょうか。1年前に立てた自身で目標や思い。その達成はどうだったでしょうか。振り返ることは大切なことです。しかし時間は戻りませんので、前に進むしかありません。この1年の自分と向き合いながら、次の1年に向けて改めてスタートを切ることが何よりも大切です。「一年の計は元旦にあり」物事は初めが肝心。しっかりと計画を立てて、着実に実行していくことが物事達成の秘訣でもあります。2024年が建築学部の皆さん一人ひとりにとって良い年になりますように！また新年お会いしましょう！

快挙！ 本学学生として初 在学中に一級建築士試験合格

建築士法改正に伴い、令和2年より大学を卒業すれば一級建築士が受験できるようになりました。つまり大学院在学中に受験することが可能となっています。合格率が10%を切る最難関の一級建築士試験。薛研究室M2の木藤優弥くんが、昨年の学科試験合格、そして今年度挑戦した製図試験で合格を果たし、見事「一級建築士」試験に合格しました。何より本人の努力が全てですが、果敢に挑戦し、見事合格をつかみ取った木藤くんにお心からのお祝いを送りたいと思います。木藤くんからのコメントです。

「この度は、一級建築士設計製図試験に合格できたこと非常に嬉しく思います。私は令和4年学科試験に合格し、そこから1年勉強した後に令和5年設計製図試験に合格しました。今後は一級建築士として社会に貢献すべく、精進して参ります。学生のうちに合格することで就活の際に役立ったり、社会人になってからの時間に余裕が出たりなどメリットがあります。今後大学院に進学する方は、在学中の一級建築士受験を選択肢に入れてみてはいかがでしょうか。」

2023建築学科OBOG企業交流会開催

学生と卒業生在籍109団体が交流



東北工大建築学部 東工大建築学部 市内の異業種交流センター「日仙台」で「東北を支える建設関連企業」をテーマとした交流会を開催しました。交流会には100社以上の企業と各企業の建築学科の卒業生を中心に、200名を超える皆様が参加しました。学科は、これから進路を定め、就職活動に向かう建築学科3年生や大学院生のほぼ全員が参加し、企業のこと、仕事のことなど卒業生の視点からさまざまなお話とアドバイスをいただき、また交流・懇親を深めてもらいました。その後の懇親会でも多くの皆様が参加して下さい、本学科の学生への大きな期待を感じることができました。ご参加くださった企業の皆様にはこの場を借りて心からお礼申し上げます。学生の皆さんには、このようなネットワークを活かしながら、それぞれの進路を開拓し、自分にあった進路を見つけ出して欲しいと思います。



審査会では多くの先生方から質問や意見が出されました。それをもとに、発表した学生は2月の最終審査に向けて各自の研究をブラッシュアップさせていくこととなります。

建築学部建築学科としての独自企画事業である「東北を支える建設関連企業と建築学科の交流会2023」が仙台国際センター展示等で開催されました。100社以上の企業と各企業の建築学科の卒業生を中心に、200名を超える皆様が参加しました。学科は、これから進路を定め、就職活動に向かう建築学科3年生や大学院生のほぼ全員が参加し、企業のこと、仕事のことなど卒業生の視点からさまざまなお話とアドバイスをいただき、また交流・懇親を深めてもらいました。その後の懇親会でも多くの皆様が参加して下さい、本学科の学生への大きな期待を感じることができました。ご参加くださった企業の皆様にはこの場を借りて心からお礼申し上げます。学生の皆さんには、このようなネットワークを活かしながら、それぞれの進路を開拓し、自分にあった進路を見つけ出して欲しいと思います。



企業による説明、交流の様子と懇親会での渡辺学長によるご挨拶

Pick Up Lab.

石井研究室は建築計画／福祉施設計画の計画系研究室。3年生と4年生が9名ずつ、大学院Mが2名、D（中国からの留学生）1名の所帯です。何はともあれ「集まって顔を合わせること」これがもっとも大切なことだと考えています。卒業研修は設計、論文いずれか学生自身で選択します。今年度の論文では「サービス付き高齢者向け住宅」の居住者約2,000人からのアンケート回答の分析（論文）、宮城県内にある障がい者支援施設における支援や生活と空間利用の実態調査の研究（論文）などを実施中。卒業設計に取り組む学生もいます。学生の時間が、いかに貴重で楽しいものだったか…あとから振り返ってそう思える時間を送ってほしいと考えています。



研究室忘年会 (学年を超えての交流)



大学院講義とあわせての見学会 (森のこども園 by 伊東豊雄)



3年 加藤 美咲 さん 上山明新館高校 出身

Pick Up Student

4年間の大学生活の折り返し地点を迎えた今年は、自分の進路について真剣に考えることが多くなりました。普通科の高校から進学し専門知識もない状態から始まったため苦労することもありましたが、日々の授業や課題を通し建築学の幅広さを知ることができました。また、新しいことを学び知識をつけていくことに楽しさを感じることで、2,3年前の自分とは建築に対する知識や技術が大幅に向上していると思います。私は現在、研究室配属も決まり普段の講義に加え、就職活動に注力しています。今までの経験から得られた力を強みとし、建築学においても人としてもさらに成長できるような就職活動にしたいと考えています。



1年 佐藤 菜太 さん 山形工業高校 出身

Pick Up Student

私は宮城ならではの土地で建築がどのような影響を及ぼすのかを学びたいと思いこの大学に入学しました。特に大学生活で楽しいと思ったことは創造的な課題が多いことです。自分で考え、自分で作り上げる過程が建築の楽しさを知るきっかけになったと感じています。先生方の指導で自分の案が反対されることも少なくありませんが、そのひとつひとつに意味があると考え、日々励んでいます。その甲斐あって高校時代の自分より成長したと感じる場面が多くなったと感じています。将来は学んだことを活かし、地元山形のさらなる発展に貢献したいです。そのためにインターンシップなど意欲的に参加し、さらなる成長に繋げていきたいです。